

旧三笠ホテル建造物保存修理だより

Vol.1 令和3年1月発行

◇工事概要図



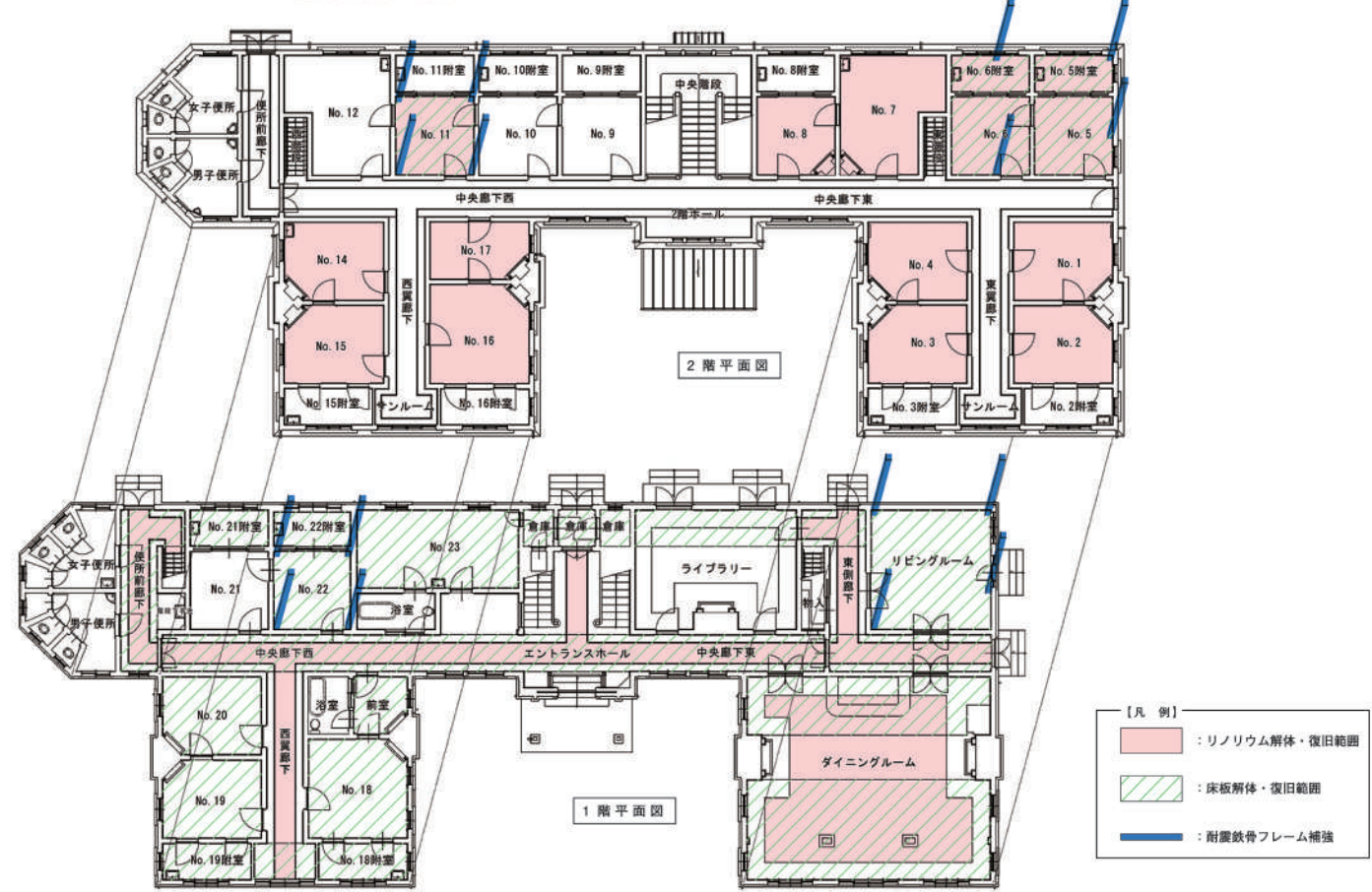
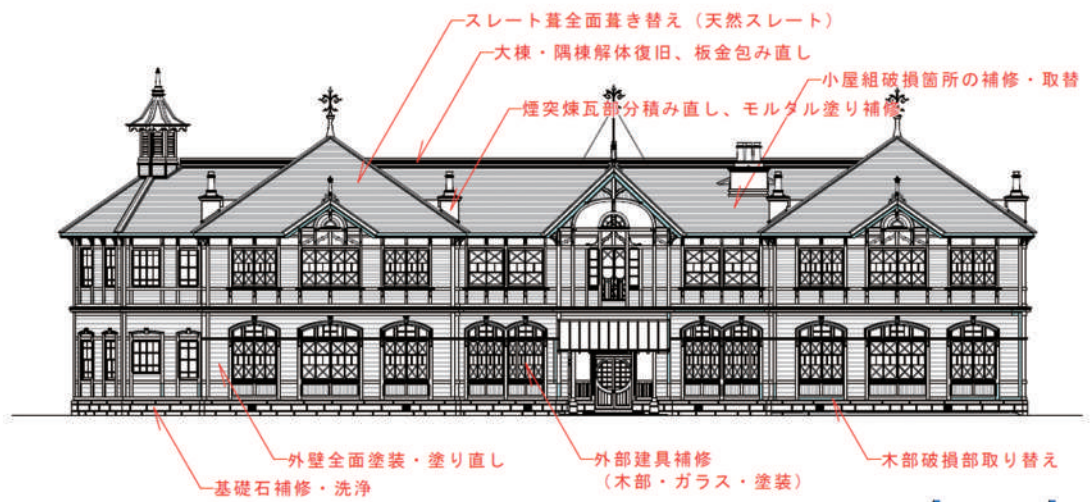
改修前の旧三笠ホテル（軽井沢町教育委員会所蔵）



初期頃の旧三笠ホテル（軽井沢町教育委員会所蔵）



昭和中期頃の旧三笠ホテル
（軽井沢高原文庫所蔵 撮影：幅 北光氏）



◇重要文化財・旧三笠ホテルについて

三笠ホテルの創業者である山本直良は日本郵船や明治製菓の重役を務めた実業家です。

設計者はイギリスで設計を学んだ岡田時太郎、監督は万平ホテルの初代佐藤万平、棟梁は軽井沢の建築を多く手掛けた小林代造が務め、全て日本人の手による木造純西洋式のホテルとして、明治39年に創業しました。

八角形の塔屋や軒を支える湾曲したブラケット、太縁の枠と幾何学模様のガラス窓等が外観の特徴で、内部は英国製タイルの水洗面所や食堂のシャンデリア等、明治期における海外の優れたものや様式等を取り入れた様子が随所に伺えます。

構造形式：木造、建築面積513.62㎡、二階建て

玄関ポーチ及び屋根八角塔屋付、スレート葺

◇旧三笠ホテルの歴史

明治38年 **三笠ホテル** 完成

明治39年 営業開始

明治40年 日本館 完成

明治43年 日本館 山津波（土砂崩れ）により流失

大正10年 別館 完成

大正14年 (株)三笠ホテルとして営業開始

昭和19年 外務省が軽井沢出張所として借り受け

昭和20年 **進駐軍が接収** 米陸軍第一騎兵師団
将兵休養所として使用

昭和22年 米陸軍第八軍がM.P. 駐隊ホテルとして使用

昭和26年 別館 米軍失火により焼失

昭和27年 **三笠ハウス**として営業開始

昭和47年 (株)日本長期信用銀行が買収

昭和49年 北側へ約50m 移築、浴室棟等を解体

昭和55年 (株)日本長期信用銀行から町へ寄贈

国の重要文化財に指定

昭和58年 内部の一般公開 開始

平成26～27年 耐震診断実施

平成29～30年 破損調査実施

令和元年 **保存修理事業** 開始

◇お問い合わせ：軽井沢町教育委員会

生涯学習課 文化振興係

Tel.0267-45-8695

※本事業は国（文化庁）及び長野県の補助を受けて実施しています。



◇重要文化財旧三笠ホテル建造物保存修理事業の概要

事業名：重要文化財旧三笠ホテル建造物保存修理事業

名称：重要文化財（建造物）旧三笠ホテル

建築年：明治38年（1905年）

所在地：長野県北佐久郡軽井沢町大字軽井沢1339-342

事業期間：令和元年6月3日～令和6年度末予定

工事期間：令和2年1月10日～令和6年度末予定

事業者：軽井沢町

設計監理：公益財団法人文化財建造物保存技術協会

施工：第1期工事 清水建設株式会社

第2期工事 令和3年度から着手予定

事業概要：旧三笠ホテルは竣工から115年が経過し、各部に経年劣化が見られることから令和元年度より事業に着手しました。

今回の保存修理事業では、旧三笠ホテルの大規模な補修を行います。外部は屋根スレートの葺き替えや外壁の塗直し等を、内部は雨漏りによって破損した小屋組等の木部補修や漆喰（しっくい）壁の塗直し等を行います。また、大地震が発生しても倒壊しないための耐震補強工事も併せて行います。

軽井沢町唯一の国指定重要文化財である旧三笠ホテルの文化財的価値を高めるためにも、解体しながら過去の痕跡を探り、旧三笠ホテルを未来に残して行きます。



◇屋根スレートを解体調査しています

■スレート板について

スレート板（粘板岩板）は、人工製品と天然製品の2種類に分けられます。人工製品はセメントに繊維を混ぜて薄い板状に加工したもので、天然製品は泥岩や頁（けつ）岩といった天然の石を薄い板状に加工したものです。建材としては屋根や外壁に使われ、建材以外では硯や砥石、皿等にも使われます。

欧州では12世紀から屋根材に用いられ、日本では明治20年頃から広まってきました。主なスレート葺建物は、東京駅や北海道庁旧本庁舎等があります。

産地は宮城県石巻市雄勝や登米市が有名ですが、現在は採掘されていません。

■スレートの痕跡調査

屋根面に残る釘の痕跡から、過去に2度の葺替えが行われていたことが分かりました。当初は長方形の天然スレートを、長手を縦向きに並べ、野地板に亜鉛釘で固定されていたようです。

